

環境厚生常任委員会オンライン行政視察 報告書

1 参加委員

(委員長) 岡崎 進 (副委員長) 菊池雅介

(委員) 加藤大嗣 (委員) 小島勝己 (委員) 新倉真二

(委員) 広瀬忠夫 (委員) 豊嶋太一

2 オンライン行政視察 日時

令和4年10月11日(火) 午後2時00分～午後3時10分

※全員協議会室にて

3 オンライン行政視察

平塚市 介護保険課 課長ほか3名

4 オンライン行政視察 内容

平塚市における介護人材確保のための施策等について伺う。

5 オンライン行政視察 概要

	(担当 新倉 真二)
選 定 理 由	<p>本委員会の政策討議について、「誰もが安心して自分らしく暮らすために～持続可能な地域福祉に向けて～」をテーマとし、調査研究を行っている。</p> <p>今まで、関係団体や執行部とヒアリングを行い、「福祉分野の人材の確保」に課題があることに着目し、調査の一環として令和4年6月に、「高齢者介護の仕事に対するイメージについて」のアンケート調査を市内公立学校の中学2年生とその保護者を対象に行った。本アンケート結果から、介護におけるイメージアップが課題であることを感じている。</p> <p>平塚市で取り組まれている介護人材確保のための施策等について、先進的であると考え詳細についての調査研究の必要であると感じたため。</p>
内 容	<p>「介護人材確保のための施策等について」</p> <p>(1) 介護人材確保・定着促進に取り組まれた経緯の詳細について</p> <p>高齢化が進行しており、今後は特に後期高齢者の人口が増加することが見込まれる中、介護ニーズも拡大すると想定される。安定した介護サービスの提供のためには、その担い手となる介護職員の不足は大きな課題であると考えたため介護人材確保に取り組んできた。</p> <p>国の配布している介護人材需要推計ワークシートによると平塚市は令和7年に650人、令和22年で1101人が介護人材として不足すると見込まれる。介護人材確保を強化する必要を感じて取り組んでいる。</p> <p>(2) 各事業の取組において工夫した点及び成果について。また、それらの事業のうち、特筆されるものについての総括的な見解。</p>

介護職員イメージアップ動画「ピカイチ☆フィルム」。介護業界のイメージアップを図るため、市内介護事業所の職員に協力いただき、仕事はもちろんプライベートでも輝く姿を取り上げた動画を作成している。

市ホームページに写真を含めた記事を掲載する形で実施していた「うちのピカイチ☆職員」を動画形式にアップデートし、市内各所での放映及び新規に開設したYouTubeチャンネル「ひらつか介護チャンネル」での公開により広く市民の目に触れるようにした。動画は委託などをせず市職員が手作りで作成している。イメージアップは効果がすぐに表れるものではないため、動画を定期的に更新しながら、継続的に取り組む必要があると考えている。

概要は下記の表のとおり。

	工夫・成果
カイゴ・しごと・ガイド	写真や事業所職員の声などを掲載し、求人情報と差別化。市内各所に配架し、広く手にとれるようにしている。
わかてカイ	(4) 参照
若い世代向け介護体験授業	県立高等学校の生徒に「自分事」として受講してもらうため、介護の実演の前に、介護の重要性を伝える時間を設け、高齢者や介護の理解が深まるようにしている。
就職相談会・事業所見学会	事業所を直接見学し、さらに希望者は個別面談ができる機会とすることで、就労時のミスマッチを防ぐ。
介護業界で働く方向けの相談窓口	職場に相談しづらい悩みを相談できる外部の窓口を市ウェブにて一覧で紹介することで、情報にアクセスしやすくしている。
初任者研修受講促進事業	市内で初任者研修を開講している事業所に補助金チラシを配ってもらうよう依頼し、事業周知を図っている。
介護職員等宿舍借上げ支援事業	補助金要件に該当しそうな事業所には積極的に情報提供を行っている。 補足： 介護職員等宿舍借上げ支援事業については、条件として災害時に要支援者の受け入れをしてもらう協定を結んでいる。

[ピカイチ☆フィルムについて]

- ・委託でなく職員が動画を作成した理由について
→効果を見てからの予算付けとなったため、まずは職員が手作りすることとなった。
- ・プライベートの充実について
→仕事だけではなく、趣味も生き生きとしている方の紹介を求め、応募された方を取り上げた。

[カイゴ・しごと・ガイドについて]

- ・効果について
→直接就職につながったかについての確認はできていないが、ガイドの捌け具合を見ると関心を持って手に取っていただいているのではないかと推測する。

[わかてカイについて]

- ・若手職員の仕事の悩み解決のための横組織について取り組む経緯
→計画段階で介護人材部会を設け、職員やハローワーク職員など外部の意見を伺う中で、同じ世代で話せる機会を作ろうとして出てきたもの。
 - ・職員の横組織のこれからについて
→ひらつか地域介護システム会議において現在横の交流がある。
 - ・グループワークの開催状況について
→1回目は9名、2回目は12名が参加した。
 - ・介護業界としての組織なのか。
→市が主催し個々の職員が対象となる。事業所としては研修派遣として職員を派遣する。
 - ・業種間や業界全体のイベント等につながるものか。
→参加者がのちに先輩としてリードしていくようになればと考えている。
 - ・わかてカイの対象者について
→10代から39歳までを対象としている。
 - ・市とひらつか地域介護システム会議の関係について
→事務局は市社協の職員が担っている。介護保険制度ができた頃から、多種の事業者所属で委託先でもある。
 - ・ひらつか地域介護システム会議への行政のサポートについて
→各事業ごとのつながりである。
 - ・若手会へ市長が関わった反響について
→SNS発信、ロボット導入など市の関わりへの意見交換ができたこと。
 - ・若手会開催時間について
→会議は日中開催しているため、仕事の一環として参加してもらっている。仕事を抜けれない方も多く少人数になった。
 - ・看護職の参加はあったか。
→募集を限っていたわけではないが、介護士がほとんどであり、直近では福祉用具の事業者が1名参加した。
 - ・介護職員の定着率や離職率について
→市では把握していない。
 - ・若手会のSNSなどの発信について
→平塚市のLINEを利用して発信している。
- [若い世代向け介護体験授業について]
- ・県立高浜高校体験授業とその詳細について
→カリキュラムとしての位置付け、元々高校と事業者が始めたものに市が関わって広報や他への効果を期待している。将来、介護の仕事に就きたいと考えている生徒が参加している。

- ・介護保険課の担当者が介護人材担当として動き始めたのは
→H30年度から

[介護職員初任者研修受講促進事業について]

- ・取り組まれた経緯等について
→H30年度から実施している、8期計画についてのアンケートで事業者から市施策への要望が多かったものである。H30年度は5名、令和2年度は11名。

[介護職員等宿舍借上げ支援事業について]

- ・内容や効果等の詳細について
→H30年度から実施。ほぼ1事業者で1人か2人。外国人の方が実績。

以下、当日の質疑ではなく事前質問と回答

- (3) 先進的な施策に様々取り組まれているが、国や県からの特別な権限等を与えられているか。また、事業を行うに当たり、どの程度予算計上をされているか。

→国・県からの権限等の付与はなし。

<u>令和4年度予算</u>		830千円	
内訳	報償費	220千円	各種研修・講座の講師謝礼
	補助金	610千円	介護職員初任者研修受講促進事業 介護職員等宿舍借上げ支援事業

- (4) 行政とひらつか地域介護システム会議が協働し、「介護職員若手交流会（わかてカイ）」を行っていると思うが、どのように関わっているのか。また、市長が交流会に出席された経緯及びその効果についても伺う。

→・ひらつか地域介護システム会議と協議の上カリキュラムを作成した他、ひらつか地域介護システム会議に加入している事業所に対し、事業の積極的な周知をしていただいた。また、当日は事務局にオブザーバーとして参加していただいた。

- ・市民の御意見、御提案を市長が直接伺い、市政に反映させるために「市長と語ろう！ほっとミーティング」を年に数回開催している。今年度のテーマとして、コロナ禍で感染リスクが高い中尽力いただいているエッセンシャルワーカーである、介護職員の生の声を聴きたいと市長から要望があり、わかてカイとのコラボレーションを行った。

「若手介護人材の確保」と「介護現場の負担軽減」をテーマに現場で働く職員と市長が意見交換を行い、今後の市政に活かすための貴重な意見を伺うことが出来た。

- (5) 貴市の高齢者福祉計画（介護保険事業計画）に介護人材確保等の施策を具体的に記述されたのはいつ頃なのか。

→平塚市高齢者福祉計画（介護保険事業計画[第6期]）（平成27年度～平成29年度）

所感	<p>今回のオンライン行政視察を通じて感じたことは、本市の方が進んでいるところもあるものの、先進市である平塚市の取組でただちに本市で導入可能なものもあるということである。ピカイチ☆フィルムやカイゴ・しごと・ガイド、わかてカイなどの取組はさほど大きな変更を加えずに実行可能なものと推察する。</p> <p>ただし平塚市でこのような施策が有意義に実行できている理由は、H30年度から介護人材担当を置いて取り組んだことにあるとも考えられる。介護職員の不足を喫緊の課題として捉え、介護人材確保のための諸施策を有効に行なうために、まずは介護人材担当を置いて取り組んだ平塚市の姿勢を学ばなくてはいけないのではないかと感じた。</p>
備考	

6 参考資料